

七尾藍佳さん

ななお・あいか●フリーキャスター、ジャーナリスト、国際メディアコンサルタント。東京大学教養学部卒業後、日本テレビ系列「News Zero」等でキャスターとして活躍。ブルームバーグTV日本支局特派員、NHKワールドレポーターを経て産業経済大学にて国際経済学と英語の講師を務める。ニュースを斬る鋭い視点に定評が。



YASUYUKI NOJI

七尾藍佳さんがレポート

「みんなでチャリティ」最前線

こちらのページでは、毎回テーマごとに、どのような厳しい現実があるのか？ また、ヴァンサンカンのエレ女が、チャリティ活動にどのように参加できるのか？ を探ります。ジャーナリストとして活躍中の知性派エレ女、七尾藍佳さんにレポートしていただきます。

Text: AIKA NANAO

Vol.5 欧米型チャリティ・スタイルとは？

寄付金集めも山歩きも「楽しみながら」

100キロ、4人1組、48時間、ひたすら山道を歩くことが貧困撲滅に繋がる…そんなチャリティがあります。イギリス発祥の国際NGOオックスファムが主催する「オックスファム・トレイルウォーカー」には、これまで世界中で延べ13万5000人が参加。もともと商社ウーマンとして駐在していた香港での参加をきっかけに団体への関わりを深め、現在はオックスファム・ジャパンでファンドレイジング（寄付金集め）を担当する辻和さんにイベントの魅力を伺いました。

「ハードなビジネス界に生きる欧米のビジネスパーソンたちは、大自然に癒しを求める部分があるのだと思います。私自身、香港で働いていたときはかなりのストレス下になりましたが、山に入ると流す汗には、ジムでのトレーニングとまったく違う価値がありました」

自分の体力の限界に挑戦することに加え、トレイルウォーカーには参加のための「最少寄付金」があるため、参加者ひとりひとりが「ファンドレイザー」になるという「もうひとつの挑戦」があります。

「寄付金の順位がチームごと、法人ごとにひと目でわかるサイトを設けていて、競技感覚で挑戦していただいています。チャリティのために頑張るって歩き、頑張るって（寄付を）集め、周りに呼びかけ、楽しみながら参加していただきたい。そういう形で多くの人を巻き込んでいかないと、オックスファムが掲げる貧困撲滅という壮大なゴールは達成しえないと思います」（辻さん）

誰かのために流す汗は、気持ちいい

オックスファム・トレイルウォーカーの参加者の勤め先や協賛企業にもグローバル企業、特に金融関連が目立ちますが、FITチャリティ・ランは、まさに在東京のグローバル金融企業が立ち上げたチャリティ・イベント。2005年の第1回開催時からの累計寄付額は5億円に上り、完全ボランティアで運営されてい

るため、集めた資金に対する寄付金の割合は約90%と稀にみる高さです。本来は「ライバル企業」である同業各社が共催することのようなチャリティ・イベントは、ほかに例を見ません。立ち上げメンバーの一人、ドイッ証券広報部長のアストンJ・ブリッジマンさんにFITの由来を伺いました。

「2004年スマトラ沖大地震及びインド洋大津波被害を機に、金融機関有志による実行委員会が発足しました。当時から「何か社会の役に立ちたい」という人が多く、彼らの善意やエネルギーが、従業員の家族や友人も参加できるラン・イベントとして実現しました。また、認知度などの問題により十分な活動資金を確保できていない団体へ寄付することで、業界として社会に良い動きを作り出したいという想いがあります」

共同実行委員長でウェルズ・ファアーズ証券代表取締役社長のレイモンド・ウオングさんは、企業としてチャリティを成功させる秘訣は「トップの姿勢」にあると語ります。「チャリティを通じてコミュニティに貢献することが会社にとってプラスになる、という姿勢をトップがはつきりと示すことに尽きると思います。それも上からの命令に終わらせず、なぜ行おうのか」を丁寧に説明することが不可欠です」

企業も、社会というチームの一メンバーで、企業が運営を続けるにはコミュニティチーム全体がうまく回らないといけない、だからこそ「みんな」のために企業が社会を支える…「グローバル企業」には、こういったマクロな視点が根づいているからこそ息も長く、かつ規模の大きなチャリティが実現できるのです。



壮大な景色を横目に苦しくも心地よく山歩きするトレイルウォーキング。Getty Images

今月のチャリティ団体

1 Oxfam Japan オックスファム・ジャパン



福島で開催して東北を支援

世界的イベント「オックスファム・トレイルウォーカー」は日本でも開催され、累計4億円を超える寄付金を集めている。現在は日本百名山の一つ、福島県安達太良山で開催し、東北の復興支援を主な目的に、100Kmを48時間かけて山歩きするコースのほか、50Km/24時間のコースも設け、体力面が心配な初心者も参加しやすい体系に。いずれも4人が1組となってゴールしなければ順位もつかないというルールが。参加費は4人1組のチームで¥60,000。ゴールタイムを競うだけでなく、チームごとの寄付金をランキングにするシステムも。2016年度は4月1日から募集を開始予定。詳しくは、<http://www.oxfam.jp> をご覧ください。

2 FITチャリティ・ラン (Financial Industry in Tokyo For Charity Run)



金融業界の繋がりをチャリティに

2004年に、金融機関6社の有志が「私たちが働き、生活を営む社会のために何かできるはず」と立ち上げたのが始まり。11回目を数えた昨年の参加者はボランティア・ランナー合わせて約6000人、約100社の企業が参加した実績が。各社で手を挙げた人が運営に携わるため、運営メンバーは社名も肩書も多彩。新人から企業のトップまで、男女問わずボランティアとして参加することがネットワークキングにも繋がっている。共同実行委員長の松方留美さんは「運営に携わることが『楽しい』のがFIT成功の秘訣」と語る。協賛企業に友人がいれば、誰でも参加可能で、運営メンバーや支援先候補団体も随時募集しているそう。詳しくは、<http://fitforcharity.org> をご覧ください。

Antony Tran